

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090800238		
法人名	医療法人 輝栄会		
事業所名	グループホームトリニテ松崎		
所在地	福岡県福岡市東区松崎2丁目7-21		
自己評価作成日	令和7年12月23日	評価結果確定日	令和8年5月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaignokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php">http://www.kaignokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市南区井尻4-2-1 関ビル1F TEL:092-589-5680 HP:http://www.r2s.co.jp		
訪問調査日	令和8年2月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

施設前には公園があり、日和の良い日には散歩に出かけております。施設前の道路は子ども達の通学路でもあり、往来の際に挨拶をしたり、お話しをしたりと交流することもあります。また、JR千早駅から車で5分程の位置にあり、利便性に富んでいます。母体が医療法人ということもあり、医療面でのサポートも充実しています。緊急時の対応も万全です。看取りの体勢構築にも力を入れています。更に小規模多機能ホームやサービス付き高齢者住宅併設の複合型施設ということもあり、サービスの変更などご利用者の状態に合わせ柔軟に対応できることもご本人様やご家族様の安心に繋がっているようです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成24年に開設された「トリニテ松崎」は3階建ての複合型施設でサ高住、小規模多機能施設と併設されるグループホームで2階部分に2ユニットが配置されている(なお、1階にあったサ高住の一部を、本年1月1日よりグループホームにしたため、現在は3ユニットになっている)。母体は総合病院であることで医療連携に強く、利用者や家族の安心につながっている。バイパスや都市高にも近いが、多々良川(遊歩道あり、渡り鳥も飛来する)も近く、事業所前に公園も広がることでアクセスも含めロケーションが非常に良い。地域との交流においても、行事の開催、参加や受け入れを友好的に行っている。施設内での日常生活を通して、利用者一人ひとりが生きがいや楽しみを持って、穏やかに過ごせるように努めており、事業所内も、利用者や職員の笑い声が絶えず、楽しそうな様子が伺える。今後も地域に根付いた活躍が期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の掲示を行い、朝礼時に唱和を実践している。理念には三位一体で協働と貢献を高めていくことが込められており、意識しながら実践している。	地域密着型の視点を有する理念は、三位一体(トリネティ)で協働と貢献を高めていくことが込められている。事業所内に数ヶ所掲示し、毎日の朝礼時に唱和するなど、理念に触れる機会を作って共有に努めている。全職員が理念を元に日々のケアを通して、実践に向けて取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	2ヶ月毎の運営推進会議開催、地域行事への(清掃活動等)への参加。秋祭りをトリネテ主体で行い、昨年より続けて今年も実施した。交流は増えている。	下記のとおり、地域の方とのかかわりを増やし、一層深めている。 ・「秋祭り」の開催も、今年で3回目を迎える。事業所及び事業所の前の公園も利用して、バザーや作品展の他、フリーマーケットやキッチンカーなどの出店で賑わっている。なお、その際にはボランティア、家族、地域住民の方々の協力がある。 ・2～3ヶ月に1回、町内の清掃活動に参加する。 ・近隣の保育園児の訪問があり、事業所内にて歌を披露している。 ・公民館を催しの際に利用している。 ・自治会、中学校区における事業所間ネットワークに加入している。	町内にて「認知症カフェ」を展開する予定があるとのこと。実現できることを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学校区における事業所間ネットワークの構築を充実させながら、地域サロンなどへの職員の派遣や参加。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ヒヤリハットの前2か月の報告を行い、事故防止への取り組みに対する意見などをいただき、今後の防止対策に生かしている。地域行事や社協行事のお知らせをいただき、協力や参加についてのすり合わせを行う。	本年度はコロナ蔓延が見られ、やむを得ず8月に中止したが、事業所内で、小規模多機能型施設と合同にて、2ヶ月ごとの定期開催が定着している。町内会長・東区社協の代表者・包括職員・民生委員・消防団の方・利用者家族・他事業所職員らが出席する。入居状況や活動内容、事故・ヒヤリハットなどの報告、次回の開催日等を協議し、参加者からは意見や質問、地域の情報も得ている。	運営推進会議に対して多くの家族に関心を持ってもらい、出席していただいたり、意見や提案をいただいたりするために、請求書と一緒に家族にも議事録(または会議内容を集約したもの)を送ってみてはいかがでしょうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議への参加要請は必ず行い、社協、支援センターからの出席がある。お互いの行事の紹介はじめ行事の共催や参加要請など行い、協力関係は築いている。	運営推進会議や事業所間ネットワーク、地域サロンなどへの協力に加え、事故報告や運営上の不明な点など、こまめに質問や相談をしている。直接訪問の他、電話やメールによる。生活保護利用者について、保護課とのやり取りもある。包括とは入居についての相談もある。良好で円満な関係が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員が気づかない間に外に出てしまう利用者もいらっしゃいますが、人感センサー等を使用しながら自由にフロア内を歩いてもらい玄関の施錠開放を実施している。身体拘束ゼロケアの実践は出来ているし、常に心がけている。	身体拘束をしないケアに職員全体で取り組んでいる。身体拘束防止委員会の開催に加え、勉強会(年2回)を通して、職員はスピーチロックを含めた拘束についての理解を深めている。過去には離脱もあつたとのことだが、現在、正面玄関は施錠開放しており、帰宅願望のある方に対しては、無理強いせず付き添い、落ち着くまで見守り対応している。	

R8.2自己・外部評価表(事業所名GHTリネテ松崎)確定

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回以上の研修を実施しながら、防止に努めている。職員間でも注意し合うよう研修後も虐待防止に取り組んでいます。			
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修への参加などを通して、学習機会を確保したり職員間でも制度についての語り合う機会を設けて制度の理解に努めている。	現在制度利用者あり。職員は研修や実務を通して認識を共有している。事業所としては必要時には管理者が説明して外部機関につなぐ体制が整っており、パンフレットも備えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設見学、申込み、契約の時々において詳しく説明し、理解いただくように努めている。			
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議へのご家族参加もあり、そこでご意見を頂いたり、直接管理者に電話でご要望を頂いたりしております。その意見はユニット会議で職員へ伝達し情報共有して、ご家族のご要望に沿えるよう努めている。	コロナ禍も落ち着き、現在では家族の面会も制限を設けずに居室に行っている。家族からは、面会時に意見や要望を聞く他、電話やメールでのやりとりを行っている。請求書と一緒に郵便物も送付している。意見箱を設置しているが投函はない。利用者からは日頃の会話から意見や要望を聞き取るが、意思疎通困難な方からは日頃の表情の変化などから把握に努めている。意見は職員にて共有している。	家族の意見をできるだけ多く集約するため、満足度アンケートを行ったり、家族会を開催したり、といったことを提案させていただきます。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に意見交換ができる環境づくりに努めている。ユニット会議の開催時などでも「意見を聞き、可能な限り、できることから着実に」をモットーに反映するように努めている。	毎月ユニット会議があるが、日常的に、些細なことも含めて意見交換を繰り返しており、職員は意見や要望、提案をして反映されている。管理者には日頃から相談しやすい(声を掛けやすい)環境づくりに努めている。「意見を聞き、可能な限り、できることから着実に」とのモットーがある。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ユニットでの実態把握を行い、部署や経営主体執行部への具申などを行うことで、職場環境・条件整備に努めている。			
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員は性別を問わず、年齢層も幅広く、資格の有無も排除の対象にはしていない。採用後においても職員の意思や能力に十分配慮したものとなっている。	職員採用にあたっては、性別や年齢で排除するような事はなく、幅広い年齢層の職員が勤務している。職員相互のコミュニケーションは良好で、希望休なども取りやすく、休憩時間や場所も確保されている。資格取得に向けた支援もなされており、自己研鑽に励んでいる。事業所として、外国人技能実習(現在、ベトナムの方が4名)を通しての人材育成にも取り組んでいる。個々の能力や特技を活かして生き生きと仕事している。		

R8.2自己・外部評価表(事業所名GHTリニテ松崎)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	施設内の各種研修の際に人権の重要性やプライバシー保護についての啓発に努めている。また、外部研修への参加についても積極的に勤めている。	認知症高齢者に対する理解や権利擁護、虐待防止等に関しての研修を定期的に実施して、認識を深め、啓発に繋げている。職員は利用者の個性・そのらしさを大事にして接するように心がけている。言葉遣い等で気になった際は、その都度、管理者が指導、職員間でも指摘をし合っている。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修参加の推奨と併せ、人材育成プログラムの作成構想を検討している。また外国人技能実習を行っており、人材育成に取り組んでいる。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	東区グループホーム協議会にて世話人をしており同業者との意見交換や勉強会が定期的に行われており、積極的に参加し、サービスの質の向上に活用している		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	計画作成担当者だけに任せるのではなく、職員一人ひとりが本人の意思を引き出し、ご利用者の生きがいや安心につなげていっております。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様への生活状況等の報告はもちろん、信頼関係構築へのコミュニケーションを大切にし、ご家族様の満足や安心につなげるよう努力しております。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始時は管理者と計画作成担当者が主に生活歴や現状についてのヒヤリングを行います。そこで今必要な支援を考えています。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「出来ない事を問題にするのではなく、その方が出来るような工夫をしよう！」とのスタッフ共通意思のもと、少しでも自立した生活、役割や生きがいをもった暮らしができる環境づくりを一緒に考えています。		
21		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様ごとに担当職員を決め、その職員より御家族へ一筆箋を手書きで作成し利用者様のご様子を毎月報告している。ご家族様にも管理者以外の職員の名前を覚えてもらえ、親しみをもって頂けるよう努めている。		

R8.2自己・外部評価表(事業所名GHTリニテ松崎)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個別レクを通して馴染みの場所、人との関係が途切れることがないように支援しております。ご家族の面会機会を設けたり、自宅への帰宅機会を企画実施しています。	事業所は家族との繋がりを大切にしている。コロナ禍においては、家族との面会や外出などにやむを得ず制約を設けたが、現在は、感染予防に配慮しながら、居室での面会、家族との外食やドライブ等の外出、外泊に、事業所も支援をしている。全員が訪問理美容を利用して、定期的に顔を合わせる理美容師とは新しい馴染みになっている。過去に華道を教えていた利用者のところに、弟子が訪ねてきたり、馴染みにしていた甘味の店を職員と一緒に訪ねたり、ということもあり、昔を懐かしむ機会を増やしている。	ご家族に対して、馴染みだった美容院を訪ねてみてはいかがですか？…とおすすめしてみたら、懐かしいつながりを思い起こす事になるかと思います。
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクレーションには必ず職員も参加し、声掛け、気配り、目配りをし、皆様が参加し孤立することないようにしております。レクを通しての共同作業やお世話をしたりされたりの関係を大事にしています。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了は、ほとんどが死亡退去です。そこで、入院加療となられた場合や施設替え等が生じた場合には面会やご家族との連絡なども配慮していきます。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意思を聞き出すことは難しい場合も多々ありますが、ご家族様からの聞き取りや日常の動作、生活歴などにも注意を払い、本人様に寄り添う努力をしています。	入居(利用開始)前のアセスメントは管理者や計画作成担当者が本人・家族からこれまでの生活歴・馴染みの暮らし方・要望・不安なことなどを聞き取り、把握に努めている。意思疎通の難しい方には、表情・仕草・何気ない言葉などから思いをくみ取り、本人本位に検討している。ケアプラン更新時や状況が変化した際には、計画作成担当者が、職員のかかわりから、アセスメントの更新を行っている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアプラン作成時のアセスメントを重要視しており、スタッフが関わること、本人家族への寄り添いの気持ちを大切に傾聴に徹することで今後の支援につながるよう努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタル測定や水分量、排泄の状況は詳細に記録しており、その都度NSIにも報告助言してもらい、健康管理をしています。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃の気付きを大切にし、ケアプランに反映させております。ご本人はもちろん、ご家族様にも計画段階で必ず意見を聞き、反映させる努力をしています。	介護計画は、3ヶ月ごとのモニタリングをもとに、計画作成担当者を中心にして作成している。担当者会議を開催し、本人・家族の他、医師らかかわる多職種の人々等からも口頭や書面により意見を集約している。現場からの意見も踏まえ、評価・課題分析を行い変化を見逃さないようにして、現状に即した介護計画を作成している。職員は、介護記録の取扱の際などに、個別のプランの目標を振り返っており、共有している。	

R8.2自己・外部評価表(事業所名GHTリニテ松崎)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに基づく記録をするように職員には意識付けている。またご利用者様が発した言葉や態度を正確に記録するなど、客観的な記録を重視し、職員間で情報共有するようしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様やご利用者様のご要望には出来る限り対応しようと日々頑張っている。ご家族のご希望で現在、看取り介護もおこなっており、医療行為も要するため、訪看を利用しながら支援している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	清掃活動に参加し交流を図っている。また来年度も秋祭りを開催予定である。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ病院がある方に関しては受診のサポートをしている。他の方は千早クリニック往診にて日常のフォローをしている。	経営母体となる福岡輝栄会病院によるサポートがある。元々のかかりつけ医を希望される方は継続も可能で、事業所にて受診を支援する。事業所の提携医からは、24時間、365日対応が可能な訪問診療の提供がある。歯科診療やリハビリ、マッサージでの訪問もある。看護師が常駐しており、バイタル測定や水分摂取量、排泄の状況などを通しての健康管理、緊急時の対応がなされている。職員間でも情報を共有し、家族への報告も適切に行っている。家族の安心に繋がっている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は気づきがあれば看護師に相談し、必要と判断されれば受診の介助もしている。看護師の不在時は他の部署の看護師に応援を依頼したり、電話連絡にて状態を報告している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	母体が病院ということもあり、入退院の情報交換はスムーズに行えている。また入院中は病院の地域連携室とこまめに連絡を取り情報交換を行い、早期退院に努めている。ご家族様にも状況を報告するなどしている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在、ご家族の希望で看取り介護を行っている。ご利用者様の状態が変化するたび、ご家族に報告し、担当医からの説明の場を設け、事業所で出来ることをその都度説明し意思確認を行い、訪問診療、訪問看護、事業所で協力しあい支援している。	希望があれば最期まで支援する指針を定めており、入居時に説明して書面にて同意を得ている。早い段階から家族や医師と話し合いを重ねて方向を決め、看取り対象となった時には改めて同意書をもらう。看取りケアについては研修で情報共有し、管理者は職員のメンタル面にも気遣っている。今年度は1名の方を看取っている。	

R8.2自己・外部評価表(事業所名GHTリニテ松崎)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命処置の研修を行ったほか、緊急連絡網は職員の異動などがあつた際にはすぐに見直し、その際に職員に緊急時対応・応援要請などについて職員間で情報共有している。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、施設全体で防災訓練を行い、その際にはご利用者様にも実際に避難して頂き、訓練の為に訓練にならないようにしている。	災害マニュアルに基づき、年2回夜間想定を含めた避難訓練を実施し、水害への対応(多々良川が近く、土嚢を準備している)も行っている。消防団の参加がある。訓練は施設内全体合同で行う。水や食料品、カセットコンロなどの備蓄物も確保されている。地域で行われる防災訓練にも、職員が参加している。	訓練には、家族にもお伝えして、施設の取り組みの現状を知ってもらい、万全な体制を整えていることで安心してもらうとともに、万一の場合の協力をお願いをしていただきたいと思います。できれば、参加(見学)していただくと良いですが。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心を傷つけないような声掛け・介助に努めている。また職員間でも利用者対応に関して指摘し合える職場環境である。	接遇やプライバシー保護等の研修を定期的実施している。トイレ介助の際には必ず扉を閉める等、羞恥心に配慮したケアにも取り組んでいる。日々の業務の中での言葉遣い等、気になる言動があつた際は、その都度、管理者が指導し、職員同士でも注意し合っている。契約時に写真等の利用を含めた個人情報利用に際しては、目的を明示し、書面で同意を得ている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様が選択・決定できるような声掛けをするよう、職員皆心がけている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の一日の流れはありますが、ご利用者様の体調や希望に合わせて一日を組み立てるように心がけている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節感を大切に、同じような格好をするのではなく、色々な洋服を着よう支援している。毎月、訪問理美容もこられ希望される方はカットやカラーリングが出来るよう支援している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事レクを毎月行っている。季節を感じてもらえるメニューを考えたり、ご利用者様の希望を聞いて食べたい物を作るようにしている。	3食とも調理済み食材の配達があり、炊飯と汁物は内部で調理している。食事形態(ミキサー、刻み、トロミ付など)や療養食(アレルギー等)への対応もできる。収穫された野菜(トマトなど)が食卓に並ぶこともある。毎月食事レクとして、利用者の希望をメニューに反映してもらったり、利用者と一緒に調理したりして、楽しんでいる。誕生日や忘年会などの際には食べたい物の希望を聞いて、ケーキを買いに行ったりもする。職員も希望すれば同じ物を食べることもできる。	

R8.2自己・外部評価表(事業所名GHTリニテ松崎)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食、食事量、水分量の記録を行い職員で共有している。水分摂取が難しい方には好みの飲み物(ココアやカルピス)を作って提供したり、ご飯を必ず残す方にはふりかけをかけたおにぎりして提供したりしている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分で磨いて頂き、その後で職員が仕上げ磨きと舌磨きを行っている。誤嚥が心配な方は吸引機を使った口腔ケアを行っている。また別府歯科往診も継続している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で排泄リズムをつかみ本人様への声掛けを行っている。介助で少しでも立位が可能な利用者様にはトイレでの排泄を行っている。	トイレは各ユニットに3ヶ所あり、車いすの介助が十分な広さを有する所、浴室(脱衣室)横に設置した所もある。排泄チェック表を利用して、職員は確認しながら、利用者それぞれのタイミングを把握し、誘導の時間を変えるなど、職員同士の改善の話合いに役立っている。パット利用などの軽減については職員が適宜提案している。トイレでの排泄をすすめることで、立ち上がりの安定感や、排泄に対する意欲に変化が生じてきている。情報共有しながら、自立した排泄に向けた支援を行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝青汁を提供。また歩行訓練や体操など身体を動かし、自然な排便を促している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	拒否があれば無理強いせず、タイミングを見て再度声掛けしたり、別日や清拭に変更したり、その方に応じた入浴介助を常に考え、実践している。	個浴のユニットバスで、バスベンチ、キャリーもあり、3方向介助ができる位置に浴槽がある。週2回の入浴を基本としているが、利用者の希望や体調に配慮しながら柔軟に対応している。拒まれた際も無理強いせず、タイミングが合う時に提供し、清潔な状態が保てるように支援している。職員は、入浴剤を使ったり、季節湯(ゆず、菖蒲など)を工夫したり、BGMを流したりしながら、コミュニケーションを通して、楽しく入浴できるように努めている。皮膚観察も行い、また特変時には医師に迅速な報告をするなどの対応を心掛けている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様の夜間の睡眠状態や日中の状態を確認して適宜午睡を取り入れている。就寝時間についてもある程度のスケジュールはあるが、ご本人様の意思を尊重し、ご本人様が寝たい時に寝、起きたい時に起きるように職員は配慮している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報は個人ファイルで管理しており、適宜確認できるようにしている。また処方薬変更時には業務日報と口頭の申し送りにて伝達し、職員ひとりひとりがきちんと把握するよう努めている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ぬりえやドリルなど、ご本人様の得意な事に沿ったレクの提供を行い、取り組んでいる。飽きのこないようにレク素材も毎回検討し準備している。		

R8.2自己・外部評価表(事業所名GHTリニテ松崎)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節にもよるが、晴れた日にはなるべく戸外に出て、外気浴をするようにしている。また季節に合わせて外出レクも企画している。	体調や希望に応じて、散歩や買物、ドライブを行っている。外出レクの一環で、笠崎宮のボタン、芍薬、あじさいなどの鑑賞、川端での山笠見学、古賀市のコスモス園などへ出かける。日頃から天気の良い日は、駐車場のベンチ(テーブル付)でティータイムを兼ねた外気浴をしたりして楽しんでいる。	香椎浜イオンまで、家族と一緒に出かけた、とのことで、外出レクには、家族にもお声掛けをして、一緒に行くことができた、さらによろしいかと思います。
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日用品などの買い物の支援を行っている。個別レクで買い物好きな方に買い物レクを行い、お菓子等の買い物に同行し支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話や手紙を書く援助も行っている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花をご利用者様と一緒に生け、廊下に飾っている。また大きく書いた壁掛けカレンダーを設置したり、空調には頼らず、日中は定期的な換気も兼ねて窓を開け、外気を感じていただいております。カーテンも開け、外光も取り入れて昼夜の区別も図っている。	3階建ての2階にグループホームが位置しており、概ね左右対称の造りである。カウンターキッチンの横にホールが位置し、周囲も開けており風通しや日当たりも良い。清掃も行き届いており、清潔感がある。フローリングの床はクッション性も高めですが防止にもつながっている。季節の花を生けて廊下に飾っており、またリビングの壁面には、利用者の造った作品や写真が飾られており、季節を感じる事ができる。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方同士でお話しが出来るよう座る位置を考慮している。またトラブルになりそうな場合は職員がすぐに間に入り、良好な関係の維持に努めている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様の状態に合わせて職員の介助(特に体交や移乗)の利便性を考えベッドの配置などはレイアウトはするが、それを除いてはご本人様ご家族様にお任せし、快適で居心地よいものにしてもらっている。	広めの居室で電動介護ベッド、クローゼットが備え付けられている。掃き出しの広めの窓があり採光も良く、安全のため補助錠がつけられている。愛着のある家具の持ち込みは自由(箆箆やテレビ、冷蔵庫を置かれる方もいる)だが、どの部屋も安全性を重視して、レイアウトにも注意して整理されている。写真や作品、誕生会の色紙(しきし)などが飾られる中、思い思いに居心地良さそうに過ごしている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室ドアに大きく名前を書いたり、食卓に目印をつけたりするなど、その方々に合わせた「わかる」工夫は常に試行錯誤している。		